

# たろう通信

こさい太郎(みなとかがやき)議員活動レポート

編集発行:こさい太郎を育てる会  
共同編集:みなとかがやき  
107-0062 港区南青山6-1-6-603B  
Tel:5485-9111 Fax:5485-9100  
e-mail:taro@kosaioffice.com  
URL <http://www.kosaioffice.com/>

みなさまご無沙汰しております。小齊太郎です。

本年4月の選挙において1573票という多くのご支持を頂き、3回目の当選をさせて頂きました。感謝の念を常に忘れず、選挙を通じて受けたみなさまの声や思いを胸に、選挙でお示した区政改革の実現に向けて、議会内外で活動を続けております。

特に、「港区の税金があまっている」、財政の余剰体質の問題と減税の必要性については、声を大にし、私なりに筋道を立てて訴え続けています。しかし、現区長は「意に介さず」、逃げの一手で問題意識すら感じられません。大変残念なことであると同時に、区民への不利益を生じさせる看過できない状況です。詳しくは「通信かがやき(最新版)」をご一読頂ければ幸いです。

来年6月には「港区長選挙」が行なわれます。

私は、現区長の下での「公開度の低い」「説明責任を果たさない」「正直で裏表のない議論ができない」「区民を信頼しない」「役人にお任せ」の港区政を大きく変えるチャンスと捉えています。

今後、「税金が余っている」ことを多くの方に知らせ、「どうすべき」という大議論を巻き起こしたいと思っています。もちろん、私の解決策は「減税」ですが、とにかく、現状をありのままに伝え、このままでよいのか考えて頂く機会を作りたいと思います。

そのために、広報紙の発行や街頭遊説を行なうことにとどまらず、みなさまにご協力頂き、どこにでも出向いて「ミニ・ミーティング」のようなことも数多く行ないたいと思っています。

つきましては、右記の内容につきまして、みなさまのさらなるご協力を心よりお願い申し上げます。

## 小齊 太郎

1970年(昭和45年)1月16日東京・渋谷区生まれ。公立小学校から私立早稲田中学・高等学校に入学。1983年に港区南青山に転入。1993年早稲田大学社会科学部卒業。都議会議員秘書・代議士秘書を経て、1995年・港区議会議員選挙に立候補(新党さきがけ公認)、最年少で最高位当選。1997年新人議員3名で「みなとかがやき」を結成。1998年新党さきがけを離党、無所属に。1999年再選。2003年、再び第二位で当選し現在に至る。「みなとかがやき」幹事長。

現在、総務常任委員会、財政等対策特別委員会所属。区議会だより編集委員。赤坂消防団第三分団員、東京六本木ライオンズクラブ、南青山六・七町会役員、都市政策研究会(顧問:田中秀征氏)メンバー、NPO日本コミュニティーガーデニング協会理事等。趣味は、草野球・ボーリング・ゴルフなど(すべてたいしたことのない腕前なのですが…)

なお、4月の選挙にあたり、238名の方より2,725,000円のご寄付を頂き、主に、たろう通信の発行・発送費用に充てさせて頂きました。この場を借りて、厚く御礼を申し上げます。なお、詳細の報告は年度末の収支報告書(選挙管理委員会提出)作成後にさせて頂きます。ご了承ください。

## ご協力のお願い

### アンケートのお願い

アンケート用紙を同封させていただきました。何卒、ご協力賜りますようよろしくお願いいたします。特に、みなさまとの懇談の場を提供頂ければ幸いです。返信封筒にてご返送ください。また、ご意見やご質問等をご記入いただく欄も設けました。お気軽にご記入ください。

### ご寄付のお願い

これまでも、私の活動に対して大きなご支援・ご協力を頂きありがとうございます。これまで8年あまりの間、十分な活動を続けられましたのも、みなさまのお力添えのおかげです。改めまして、感謝と御礼を申し上げます。

さて、今後、お正月前後に「たろう通信」を発行する予定であります。先の選挙で名簿の数も増え、一回の発行で100万円近くの費用がかかります。毎々、心苦しいお願いではございますが、何卒ご支援の程よろしくお願い申し上げます。なお、ご協力頂ける際は、下記の方法にてお願い致します。

郵便振替 00130-4-353057 (同封用紙)

みずほ銀行 青山支店 普通預金 2344722

いずれも口座名は、「こさい太郎を育てる会」です。

また、ご連絡頂ければ直接お伺いいたします。

よろしくお願いいたします。

ホームページ稼働中です

<http://www.kosaioffice.com/>  
[e-mail taro@kosaioffice.com](mailto:taro@kosaioffice.com)

月に1回から2回更新しています。ぜひ、みなさまにご覧頂き、ご意見等を頂ければ幸いです。メールもお気軽にお寄せください。よろしくお願いいたします。それと、不定期ですがメール通信も発行しています。ご希望の方はメールでお知らせください。

# 時評

## 「辞表提出」 と「解任」

石原国土交通大臣が藤井総裁の解任に踏み切る決断をしたことで、その手続きの一環である聴聞に焦点が集まっている。昨日の報道では、藤井総裁側から国土交通省に聴聞の公開を申し入れたことで、公開での聴聞が行なわれる見込みとなった。この点は、国民への情報公開・説明責任を果たすという意味で意義あることと考える。

私はこの問題について、道路公団の民営化を基本方針と決定しておきながら、事実上それに反対し、財務諸表の存否についての国会答弁にも疑いが拭えない部分のある藤井総裁は早期に解任されるべきと思っていた。それが国民に信託を受けた政治家の責任であるはずである。しかし、直接の任命権者である扇前大臣は処分を先送り、内閣改造後も時期を見計らったかのような状況であった。政治が行政・官僚に対して指導力を発揮することの難しさを改めて明らかにした事例である。

そこで、私は、これまでマスコミもあまり触れていない切り口から、この一件が内包する大きな問題点を指摘したい。それは、石原大臣が解任を決断する前、5時間に及ぶ会談の後発表していた「総裁が辞表提出を了解した」という点である。私はこの報に接した際、「そこまで気を使わなければならないのか」と愕然とした。

「辞表提出」は任意である。故に、厳密に言えば、政治判断で総裁を交代させることにはならない。しかも、天下り官僚として巨額の退職金すら手にし、その後の影響力が温存される可能性も秘める。つまり、私は、なぜ会談終了の時点で「解任」の決断を下せなかったのか、ということを知りたいのである。

日本には古来、「武士の情」という言葉がある。

処分を下される前に自ら責を担えという意味である。しかし、今回の事例には適用すべきでない。なぜならば、議会制民主主義の原則に照らせば相手は「武士」でないからである。繰り返しになるが、「道路公団民営化」という大手術を政治決断で行なう際、メスを入れる道路公団の責任者がその政策遂行にふさわしくないと判断すれば、政治責任で職を解くこともあって然るべきである。今回の問題は、日本政治において連綿と続いている政治と行政、政治家と官僚の関係を如実に表した事例なのである。これは、旧憲法下の天皇親政時代から続く我が国の官僚統治の姿といっても過言ではない。自民党を壊すと意気込む小泉改革政権でも未だ踏み込めない聖域なのだろうと痛感した。ただし、その後、総裁が辞表提出を固辞したことで事態が急変し、大臣が即座に解任を決断した点は、僅かながらではあるが改革に向けた前進と見てよいと思う。

いずれにしても、「辞表提出」と「解任」の問題は、官僚統治の日本の現状を再確認し、政治主導への大変革の必要性を再認識する機会となった。

なお、「道路公団民営化」そのものについては、民営化も前向きな選択肢と考えるが、民主党が提案している「廃止・無料化論」も一考の価値があるものと感じている。今後、総選挙までにじっくりと検証したいと思っている。

### 編集後記

三期目の任期を与えて頂いてから最初の「通信」発行となりました。選挙で皆様に訴えてきた政策実現に奮闘しておりますが、「道ますます険し」の状況です。

前号の編集後記でも記しましたが、私は、明るく、裏表のない、自由に議論のできる、港区政を目指します。選挙後区政に戻り、自由に議論のできる雰囲気ますます無くなっていることに危機感を覚えています。

区民・区役所ともに、さまざまな知識や経験を持った人材がたくさんいらっしゃいます。同じ志を持った方々と区政を変えたい。その思いをさらに強くしています。

皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

# 港区議会議員選挙 をふりかえって

## 2003年(平成15年)4月27日執行 港区議会議員選挙の概要と過去比較

	2003 (H15)年	1999 (H11)年	1995 (H7)年
当日有権者数	136,822	126,940	121,182
投票総数	49,682	53,326	49,092
(内無効票等)	896	864	658
投票率	36.31%	42.01%	40.51%
当選者 /立候補者	34名/48名	35名/52名	40名/47名
こさい太郎得票数	1573票 (第二位)	1372票 (第九位)	1724票 (第一位)
こさい太郎得票率	3.17%	2.62%	3.56%
参考数値	新人8名当選 現職4名落選	新人6名当選 現職5名落選	新人8名当選 元職1名当選 現職5名落選

### 小齊 太郎

この度の選挙は、私にとって3回目の選挙でした。この選挙に臨むにあたっては、これまで8年間の私の議員としての活動・取り組みをご評価頂くこと、そして、それらをふまえた今後の港区政のあり方について訴えご判断頂くこと、この二点をストレートに表現していこうと決意していました。

初出馬の際は、「区民の立場にたった港区政を実現させるために新しい風を吹かせたい」と訴え、二度目の立候補の際は、「新しい風」から踏み込んで「区民の責任に基づく自由で自立した区政・小さな区役所づくり」を訴え、いずれも多くの区民のみなさまにご評価を頂きました。

した。

この間、選挙でお示した自らの姿勢を変えることなく、区政のさまざまな問題点の指摘や新たな政策提言を続けて参りました。しかし、特に3年前に区長が交代してからは、区政の改革志向が薄れ、新たな提案が取り上げられることは非常に少なくなりました。逆に、無駄な歳出のチェックの甘さ、都市再生への安易な同調、区民参加の不徹底をはじめ、区民の説明責任の欠如や人事の停滞、契約事務改革の不透明さなど、現状を厳しく指摘し改善を求めざるを得ない状況が次々と明らかになってしまいました。

私は、これらを非難・追及し、なんでも反対することが本意ではありません。区長に、これらの状況を改めてもらい、将来の区民生活の糧となる政策を立案し実行するための環境を整えることが必要である、との思いからこのような立場をとってきました。しかし、区長の姿勢や改革への行動はいまだ見られません。

区長の姿勢を方向転換させる必要あり、こういう思いで批判勢力的役割を果たしてきた訳ですが、港区外に目を向ければ新しい政治への息吹がさまざまな地域で生まれ始めている。私は、このままでいいのかという自らへの問いを深めていきました。「もはや区長に期待する時期は過ぎ、港区政は、大改革に向け舵を大きく切らなければならないところまで来ているのではないのか。」

区議会議員選挙を目前に控え、私は、初出馬の時とは少し違った意味で、すなわち、8年間務めさせて頂いた現職議員としての責任を十分にふまえた上で、区政に「新しい風」が必要であるという結論に至りました。それを、選挙を通じて区民のみなさまにお伝えしなければなら

チームは友人たちがボランティアで手伝ってくれたおかげで、費用のかからない理想に近い選挙を行なうことが出来ました。また、選挙はがきを通して、電話で、あるいは口伝えに私の姿勢や政策を多くの方が広めて下さったことも十分に胸に伝わって参りました。多くのみなさまに支えられ活動できていることをしみじみと感ずることが出来た選挙でした。

📍 その結果、多くの区民のみなさまのご信託を賜り、三回目の任期を与えて頂けることになりました。これまでよりもより具体的な政策を掲げたこともあり、これからの責任は極めて重いものと認識しています。現状では、私の主張は少数派であり、すぐに具体化できないことが苦しいのですが、多くのみなさまのご期待やご支援を無駄にすることのないよう具現化に向けた方法論をじっくり探っていきたいと心を新たにしています。

📍 世界的にみても、混迷を続け先の見えない時代になっています。その中で、地方政治は住民の参加のもとに方向を見出すときを迎えています。私たち自身の責任で、未来に向けた船の舵をとるときがやってきたともいえます。これまでのように、行政にお任せの政治を続けることは将来に禍根を残すことにもなりかねません。私は、私の与えられた立場で、区民が参画できる区政の環境づくりや明るくオープンに議論の出来る区政の環境づくりを行ないながら、将来世代を見据えたさまざまな政策提案を続けてまいります。今後とも、みなさまのご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

ないと確信したのです。

📍 まず、皆様からお預かりした税金が使われずに年間100億円以上あまっていることに着目し、役所の体質を考えると、何らかの名目をつけて使い切られてしまうことを危惧しました。それらは、元をただせば納税者のお金であるわけで、港区独自の減税を大きな政策として掲げました。必要な分だけ税金を預かるという新しい形をつくることによって、区民・行政ともに大きな意識変革を果たせるものと考えました。これに加えて、「無駄な税金を使わない徹底した行政改革」、「良好な生活環境を保全するためのまちづくりの見直し」、「明るく透明な区政を実現するための区民参加・情報公開の原則化」、これら3本の基本政策を徹底して選挙でみなさまにお伝えすることを決めました。

📍 この方針を決めた後は、3回の選挙の中でも最もすがすがしく、再び区政の場で仕事をさせて頂きたいという思いを素直に皆様にお伝えすることが出来たと自負しています。選挙に入るまでは、これらの政策を記した広報誌をお届けすることに専念し、選挙期間中は、とにかく多くの街頭に立って、自らの声で思いを語ることに集中することが出来ました。

📍 選挙前、通常政治活動として「たろう通信」を印刷・郵送するのに大きな費用はかかりましたが、選挙中は、多くの皆様のご支援で、地域の方に場所を提供して頂きテントの事務所をつくり、街頭宣伝や電話作戦の